

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

人間尊重の精神を基盤として，知・徳・体の調和のとれた，心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成

（2）具体目標（具体的な児童生徒像など）

仲よく

- ・よく考える子ども …… 規範意識をもち，自ら考え，進んで学べる子ども
- ・思いやりのある子ども … 自他のよさに気付き，共に伸びようとする子ども

強く

- ・体力のある子ども …… 心身ともに健康で気力や活力に満ちた子ども

たくましく

- ・はたらく子ども …… 目標の実現に向けて粘り強く取り組める子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「明るく楽しい活気に満ちた学校」

- ・明るく活気のある雰囲気の中で，子どもが生き生きと学習・活動する学校
- ・地域の教育力を生かし，学校・家庭・地域が協働し，生き生きと活動する学校
- ・高い指導力を備えた教職員が行動規範に基づき，豊かな教育活動を展開する学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）○学習指導の充実

確かな学力を身に付け，実社会や実生活の中で活用できる力を育む教育を工夫・創造する。

（2）教師力の向上

教職員として使命感や誇りをもち，自己研鑽に励み，協働しながら教師集団の総合的な指導力を高め教師力の向上に努める。

（3）特別支援教育の充実

一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を推進する。

（4）心身ともに健やかな身体の育成

健康で安全に生活できる能力を身に付け，気力や体力を育む教育活動の充実を図る。

（5）豊かな心の育成

自己有用感を高めるとともに，思いやりの心をもち，自他の生命を尊重する豊かな心を育む。

（6）人間力の育成

（人間力：社会を構成し運営するとともに，自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力）

社会的自立の基礎を培い，社会の変化に対応しながら力強く生きぬく実践力・行動力を育成する。

（7）信頼される開かれた学校づくりの推進

子どもは地域の中で育むという視点をもち，学校，家庭，地域との連携，協働を図りながら信頼される開かれた学校づくりを推進する。

（8）危機管理・環境整備の充実

子どもが安心して安全に過ごせる環境づくりに努めるとともに，落ち着いて生活できる潤いのある環境の整備を推進する。

[若松原地域学校園教育ビジョン]

「つなげよう学び 育てよう心と体 共にのびよう WGS 学校園」

小学校入学から中学校卒業・進路の実現までの9年間の学校教育を，「かかわる教職員の思いと責任を共有し連携をして，児童生徒のそれぞれの発達段階に応じた一貫性のある教育や指導をして」継続的に実践する。

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】 「明るく活気のある雰囲気の中で、子どもが生き生きと学習・活動する学校」 － 明るく、楽しい、活気に満ちた学校 － 【学 習 指 導】 算数科において、児童同士が話したり聞いたりする学習活動を通して、着実に学習内容を定着させる。 － ○児童の学力向上(学力保障)のための活動を推進する － 【児 童 生 徒 指 導】 ○「互いのよさを認め、豊かな人間関係を築くことのできる児童の育成」 － あいさつ運動、読書活動の推進を基盤として － 【健康（保健安全・食育）・体力】 「自らの健康・体力に関心をもち、進んで体力の向上に励む児童の育成」 － 休み時間の外遊び、プチトレーニングの取組を通して －
--

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項 目	評価項目	主な具体的な取組	方 向 性	評 価
学 校 運 営 の 状 況	A 1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答90%以上	①○相手を思いやる気持ちを育てる取り組みの推進のため、中学生と一緒に年間を通してあいさつ運動をする。 ②いじめゼロ強調月間には、児童会の「いじめゼロ集会」を実施するとともに、兄弟学年での年間を通したなかよし畑活動や、縦割り班でのエンカウンターを活用した異学年交流などにより、相手を思いやる気持ちを育てる取り組みを推進する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は92.5%で、数値指標を達成した。 あいさつ運動は、計画委員を中心に、クラス単位で実施した。また、中学生が月1回あいさつ運動に参加し交流を図った。 いじめゼロ強調月間では、委員を中心に、いじめゼロ集会を企画運営し、全校生が仲間であることを実感できる活動を行った。 【次年度の方針】 いじめの早期発見、早期解決のため、教育相談に合わせて年2回、学校生活アンケートを継続して実施する。相手を思いやる気持ちを育てる取り組みの推進のため、中学生と一緒に年間を通してあいさつ運動をする。 また、いじめゼロ強調月間には、兄弟学年でのなかよし畑活動や、縦割り班でのエンカウンターを活用した異学年交流を行うなど、全校活動を通して、相手を思いやる気持ちを育てる取り組みを推進する。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】① 全体アンケート「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答90%以上 【数値指標】② 全体アンケート「教職員は協力し、児童のよいところを認め、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者の肯定的回答80%以上	①児童理解を深めるため、年2回、6月と11月に教育相談週間を設定する。 ②朝の学習の時間には、国語や算数を中心に、プリントやドリルを活用し全校体制で取り組む。	B	【達成状況】 ①児童の肯定的回答は94.5%で、数値指標を達成した。 6月と12月に実施した教育相談には、Q-Uアンケート（楽しい学校生活を送るためのアンケート）の結果など十分活用することができた。 ②保護者の肯定的回答は90.8%で、数値指標を達成した。 共通理解をもとに学習指導を行ったり児童の学校の活動でのよいところを伝えることができた。 【次年度の方針】 児童理解を深めるため、6月と11月に教育相談週間を設定する。朝の学習の時間には、国語や算数を中心にプリントやドリルを計画的に実施する。 繰り返し学習の効果的な実施方法等について、職員間で共通理解を図りながら学習時間を確保し全校体制で取り組むことで、基礎・基本の定着を図る。

A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「この学校の児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	①児童の実態をもとに生活目標を洗い出し、重点化を図る。教職員間での生活目標の共通理解をさらに深め、毅然とした態度で児童にきまりやマナーなどを指導していく。 ②児童が自分の生活の様子をふり返る場や、きまりを守って生活している児童が賞賛される機会を意図的に設定する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は80.3%で、数値指標を達成した。 授業や生活のきまりについて、校内放送で呼び掛けたり、学級で随時指導をしたりしたことで、児童がマナーを守ろうとする意識は定着しつつある。 【次年度の方針】 児童と教職員・保護者・地域住民とでは状況認識にずれがある。児童の行動が変容するよう、教職員間で生活目標の共通理解をさらに深め、毅然とした態度で児童にきまりやマナー、秩序を徹底指導していく。 また、学校だより学年だよりや学年学級懇談での情報の提供・共有化を通して、家庭や関係機関と連携し、規範意識が高まるようにする。 さらに、宮っ子心の教育表彰などを活用し、積極的に児童のよさを見取り、広めていく。
A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」⇒児童の肯定的回答 90%以上	①きめ細かな指導の充実を図るため、児童の実態や授業内容に合わせて1学級複数教師による指導や習熟度別学習等、指導形態の工夫や少人数による指導を多くの学年・学級で実施する。 ②学力向上を図るため、さらに授業研究を重ね指導の工夫改善に取り組む。	【達成状況】 児童の肯定的回答は91%で、数値指標を達成した。 教員は、学年間での共通理解を図りながら教材研究や学業指導を実施してきた。また、4年・5年・6年で習熟度別の授業を行い、きめ細やかな指導をすることで、分かる授業を実践できた。 【次年度の方針】 きめ細かな指導の充実を図るため、児童の実態や授業内容に合わせて習熟度別学習や、指導形態の工夫をさらに進めていく。 授業研究会を実施し、互いに見合うことにより指導の工夫改善を図ることで、学力向上につなげていく。
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」⇒児童の肯定的回答 90%以上	①計画委員会による「いじめゼロ集会」の実施や「いじめゼロシール」により、いじめ根絶への意識の高揚を図る。 ②5, 10, 1月に実施する「学校生活アンケート」や6, 11月に実施する教育相談ならびにQ-Uの結果等を活用し、児童の変化を見逃さず、いじめの早期発見、早期解決に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答は93.9%で、数値指標を達成した。 いじめゼロ標語を作ったり、「いじめゼロ集会」で望ましい言動を考えさせたりして、意識を高めることができた。 また、アンケートを実施し、早期発見に努め、迅速にかつ組織的に対応することができた。 【次年度の方針】 道徳や学級活動の時間を通して、いじめが許されないことを、児童に意識付けていく。「いじめゼロ集会」やアンケートを継続して実施していく。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケート「私の学校生活や様々な活動は充実している」⇒児童の肯定的回答 90%以上	協調性や思いやり、勤労意欲などを養うため、農園活動、ボランティア活動、福祉活動、縦割班活動などの体験活動を積極的に推進する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は90.8%で、数値指標を達成した。 上級生、下級生がそれぞれに協力し合う活動を通して高学年としての自覚が生まれたり上級生を尊敬する意識が生まれたりした。 また、お互いに思いやり、協力しようとする心情が育った。 【次年度の方針】 感謝の心、協調性や思いやり、勤労意欲などを養えるよう、農園活動やボランティア活動、福祉活動、縦割り班活動などの体験活動を継続していく。

A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定的回答 80% 以上	授業参観やオープンスクールを実施するとともに、「学校便り」「学校ホームページ」により情報を発信する。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は97.0%で、数値指標を達成した。 ホームページで、学校便りや新田日記、学年便りなど定期的に内容を更新し、積極的に情報を発信した。 【次年度の方針】 本年度と同様に授業参観、オープンスクールを年4回、保護者と関わる行事等を月に1回実施し、情報を発信する。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】① 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80% 以上 【数値指標】② 全体アンケート「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒教職員の肯定的回答 80% 以上	①授業参観などの学校行事やPTA活動など教育活動に積極的に参加できるよう各種便りや連絡帳等を活用して情報を発信する。 ②地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施する。	【達成状況】 ①保護者の肯定的回答は93.3%で、数値指標を達成した。 各種便りで保護者や地域の方への参加を促した。また、学校の様子などをホームページでも公開した。 ②教職員の肯定的回答は100%で、数値指標を達成した。 読書ボランティアや水泳ボランティア、農園ボランティアなど、各種の学校支援ボランティアを中心に地域人材を活用して教育効果を上げることができた。地域協議会やPTAと連携し、児童の安全面の確保や学習面の充実が図れた。 【次年度の方針】 ①授業参観などの学校行事やPTA活動など教育活動に積極的に参加できるよう各種便りや連絡帳等で情報を発信する。 ②地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施する。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、荷物や備品などが整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」 ⇒保護者の肯定的回答 80% 以上	①落ち着いた学校生活を送るために校内環境の在り方について、児童の視点から検討し、学校環境の整備・充実を図る。(校内掲示計画、教室掲示) ②清掃や整理・整頓について学級活動などの時間に話し合ったり、清掃時には、教職員が協働の姿勢を示したりして、環境整美に努める。また、机やロッカーの整理の仕方を具体的に示し、身近なところからきれいにしようとする態度を育てる。(清掃の手順、ロッカー・廊下のフック、靴箱の使い方等の掲示物の活用)	【達成状況】 保護者の肯定的回答は93.3%で、数値指標を達成した。 ①落ち着いた学校生活のために校内環境の在り方について、児童の視点から検討し、学校環境の整備・充実を図った。 ②清掃や整理・整頓について学級活動などの時間に話し合ったり、清掃時には、教職員が協働の姿勢を示したりして、隅々まで清掃できるようにする。また、机やロッカーの整理の仕方を具体的に示し、身近なところからきれいにしようとする態度を育てた。 【次年度の方針】 今年度の取組に加え、教科指導等で必要な備品や教材を年度をまたいで計画的に更新していくことで、児童がより学習しやすい環境作りを目指す。
B 1 教職員は学校の研究課題に関する研究に積極的に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「私は、授業で、みんなといっしょにじっくり考えながら勉強している。」 ⇒児童の肯定的回答 80% 以上	①授業の中に様々な学び合いの場を意図的に設定し、互いの学びを深め合える学習の実践に努める。 ②保護者や地域住民へ授業参観や学年だより等で児童の学びの様子を知らせ、理解を得られるよう努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答は92.2%で、数値指標を達成した。 ①授業で様々な学び合いの場を意図的に設定し、互いの学びを深め合える学習の実践に努めるとともに、学び合う学習環境を整えた。 ②保護者や地域住民へ授業参観や学年便り等で児童の学びの様子を知らせ、理解を得られるよう努めた。 【次年度の方針】 授業で様々な学び合いの場を意図的に設定し、互いの学びを深め合える学習の実践に努めるとともに、学び合う学習環境の整備に努める。保護者や地域住民へ授業参観や学年だより等で児童の様子を知らせる。

教育活動の状況	生活	A10 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「この学校の児童は、時と場に応じたあいさつをしている」⇒児童の肯定的回答 80%以上	○児童会の計画委員会を主体とし、全学級ローテーションのあいさつ運動に加え、あいさつボランティアの活動や、校内放送・のぼり・ポスター等であいさつへの意識付けを行う。若松原地域学校園として小中で協力し、あいさつ運動を継続・充実する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は88.7%で、数値指標を達成した。 児童会の計画委員会を主体とし、全学級ローテーションのあいさつ運動を継続的に行うとともに、あいさつボランティア「あいさつ広め隊」を結成しあいさつを呼び掛けた。 また生活目標にもあいさつを取り入れ、校内放送や学級での指導を行い、意識付けを図った。 更に若松原学校園として小中で協力し、あいさつ運動を継続・充実させた。 【次年度の方針】 児童の肯定的回答は数値指標を上回ることができたが、今後も、より積極的なあいさつができるようにしていくために、本年度の取り組みに加え、あいさつ名人の認定をしたり、あいさつ広め隊の活動を活性化させたりするなど、取組の充実を図っていく。
		A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、大人に対して適切な言葉づかいや返事をしている」⇒地域住民の肯定的回答 80%以上	言葉遣いについて、日常的にその都度指導を繰り返すことに加え、各学級でソーシャルスキルトレーニングやエンカウンターで発達の段階に応じた具体的な言葉遣いの指導を行う。また、計画委員会で議題として取り上げ、児童会として正しい言葉遣いを波及するための取組を行う。さらに家庭にも学年・学級懇談などを通して、正しい言葉遣いができるよう、協力を呼び掛ける。	【達成状況】 地域住民の肯定的回答は75.0%で、数値指標を達成できなかったが、昨年度よりは8.3ポイント上昇した。 言葉遣いについて、日常的にその場で個別指導を行ったり、生活目標に設定し学級全体への指導を行ったりした結果、昨年度よりも児童の意識は向上したと考えられる。 【次年度の方針】 引き続きソーシャルスキルトレーニング（時と場に応じた言動ができるようにするために作られたトレーニング方法）やエンカウンター（みんなで課題を解決したり話し合ったりしながら心のふれあいを深めていくために作られた学習方法）を取り入れ、各学年の発達に応じて朝の会・学級活動・会話科・道徳・わくわくタイム（縦割り班活動）等で指導を行う。 家庭には学年・学級懇談の機会や学年便りなどを通して、正しい言葉遣いができるよう啓発を行ったり、協力を呼び掛けたりする。
	健康・体力	A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート「この学校の児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」⇒児童の肯定的回答 80%以上	「すくすくカレンダー」の活用について家庭への周知を図るとともに、強化週間などを活用し、本校独自の「プチトレ」「家トレ」の奨励を継続して行う。また、ジャンピングボード・一輪車・投てき板など、児童が進んで運動に利用できる器具を整備・活用していく。	【達成状況】 児童の肯定的回答は89.5%で、数値指標を達成した。 「すくすくカレンダー」の活用について家庭への周知を行うとともに、強化週間の一環として水泳検定や持久走大会、なわとび検定など、各自の目標に向けて意識向上を図った。特になわとび検定では、検定表を若松原地域学校園で統一したものを使用した。本校独自の「プチトレ」「家トレ」の奨励も継続して行った。また、ジャンピングボードや一輪車、投てき板など、児童が進んで運動に利用できる器具を整備した。 【次年度の方針】 本年度の取組を継続して行う。 また、若松原地域学校園で統一した検定表を引き続き活用していくことで、児童の運動習慣がスムーズに中学校での取り組みに繋がるように支援する。

	A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケート「自分の子どもは、好き嫌いなく食事をしている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①「お弁当の日」や「校内給食週間」等の機会を捉えて、栄養面や食文化等、食に関する意識の向上を図るとともに、家庭との連携を推進していく。 ②食や健康の保持増進に関する授業を養護教諭や学校栄養職員と協力して継続・実施していくとともに、好き嫌いなく食べることができたという、達成感を称賛する機会を増やす。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は82.5%で、数値指標を達成した。 「お弁当の日」や「校内給食週間」「食事マナー週間」等の機会を捉えて、食に関する意識の向上を図るとともに、本年度新たに、若松原地域学校園統一で「食育ファイル」を作成し、家庭との連携に努めた。 食や健康の保持増進に関する授業を養護教諭や学校栄養職員と協力して継続・実施した。 また、給食室と連携して野菜の切り方を工夫するなど、好き嫌いなく食べることができるよう楽しい給食作りを推進した。 【次年度の方針】 本年度の取り組みを継続し、「お弁当の日」や「校内給食週間」、若松原地域学校園統一の「食育ファイル」等で家庭との連携を推進する。 食や健康の保持増進に関する授業を養護教諭や学校栄養職員と協力して継続・実施していく。
	A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「この学校の児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	一人一人が主体的に思考・判断する力を育てるため、自分の考えをもち、互いの意見を聞き合い、考えを深め合うなどの「学び合う」活動を取り入れた授業を継続していく。	【達成状況】 児童の肯定的回答は88.3%で、数値指標を達成した。 【次年度の方針】 助け合い補い合う場面や、高め合う場面を学習活動の中に取り入れることで、児童の能動的に学ぶ姿勢が一人一人の成就感につながるようにしていく。この取組を通して、児童の学習への積極性を育む。
学 習	A15 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①「基本的な学習のきまり」について、掲示物を活用して児童への意識付けを図るとともに、学期始めや長期休業終了時には、各教室に学習態度等に関する重点目標を掲示するなどして、集中して指導を行う。 ②個別の支援が必要な場合は、対応を検討するための話し合いを積極的にもち、各担当者間で連携して指導に当たる。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は79.8%で、平成25年度の回答から約4ポイント減少しているが、数値指標を概ね達成していると言える。 【次年度の方針】 ①「基本的な学習のきまり」を掲示して児童への意識付けを図るとともに、学期始めや長期休業終了時には、学習態度等に関する重点目標を各教室に掲示するなどして、児童と共通認識をもち学習に向かう環境を整える。 ②個別の支援が必要な場合は、対応を検討するための話し合いを積極的にもち、各担当者間で連携して指導に当たる。

	B 2 望ましい人間関係のもと、互いに協力し合いながら生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート「私は、学校でだれとでも協力して生活している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	①生命や人権の尊重をテーマとした授業を行うとともに、縦割り班による活動を継続させる。 ②お昼の校内放送の「心の輪を広げようコーナー」、掲示板の「伝え合いコーナー」を継続し、児童の自己有用感を高めたり、異学年間で互いのよさを見つけ、協調して活動しようという意欲の向上を図ったりするなど、指導の充実に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答は87.4%で、数値指標を達成できなかった。 各教科や道徳では生命や人権の尊重をテーマとした授業を行うとともに、「いじめゼロ集会」で人権感覚の醸成を図った。また、昼の校内放送の「心の輪を広げようコーナー」、掲示板の「伝え合いコーナー」を継続し、児童の自己有用感を高めた。また、「わくわくタイム」（縦割り班による活動）を実施し、異学年間で互いのよさを見つけ、協調して活動しようという意欲の向上を図るなど、指導の充実に努めた。 【次年度の方針】 各教科や道徳で生命や人権の尊重をテーマとした授業を行うことに加え、「わたしたちの道徳」を家庭に持ち帰らせ、家族にコメントを書き込んでもらうことなどを通して生命や人権を尊重する気持ちや態度の育成について家庭と連携を図るようにする。 また、「わくわくタイム」（縦割り班による活動）には、たくさんの友達と触れ合えるようなゲームや遊びを取り入れる。 更に、お昼の校内放送の「心の輪を広げようコーナー」、掲示板の「伝え合いコーナー」の呼び掛けを行い、多くの児童が紹介されるようにする。これら具体策を実施し、児童自身が他の人のために役立っているという意識（自己有用感）を高めるとともに、異学年間で互いのよさを見つけたり、協調して活動しようという意欲を向上させたりしていく。
本校の特色・課題等	B 3 教職員は、家庭や地域と連携を図りながら、あいさつ運動に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「教職員は、家庭や地域と連携を図りながら、あいさつ運動に取り組んでいる」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①交通指導員や登校・下校ボランティア・地域の見守り隊の方々等に感謝の気持ちを表したり、校舎内外でのあいさつの輪を広げたりする活動を継続する。 ②校内の掲示物や学校便り等であいさつに取り組む様子を地域や保護者に知らせるとともに、家庭でもあいさつをする機会を多く持つように啓発を図る。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は88%で、数値指標を達成した。 交通指導員や登校・下校ボランティア・地域の見守り隊の方々等に感謝の気持ちを表す「感謝の会」を実施し、感謝の気持ちを育てることができた。 昇降口におけるあいさつ運動を計画委員会だけでなく、全児童が行えるよう、クラス単位や委員会でも年2回の割合で実施した。若松原中学校と連携を図り、生徒が来校して、あいさつの輪を広げる活動と一緒にいった。 【次年度の方針】 引き続き、交通指導員や下校ボランティアの方々等に感謝の気持ちを表したり、校舎内外でのあいさつの輪を広げたりする活動を若松原中学校と連携を図りながら継続する。 また、校内の掲示物（学校だより・新田小日記等）や懇談会・たより等であいさつに取り組む様子を保護者に知らせ、啓発を図るとともに、懇談会の折に家庭内でもあいさつの輪を広げてもらうよう呼び掛ける。

B 4 教職員は、児童の読書意欲を向上させるための取組を推進している。 【数値指標】 学校独自アンケート「私は、読書や調べる勉強などで一月に20冊以上本を読んでいる」⇒児童の割合90%以上	①始業時刻前に図書館を開館し、利用時間をより多く確保するとともに、朝の読書の時間を毎日位置付け、読書の推進に努める。 ②家庭でのファミリー読書を奨励し、家庭の理解と協力を呼び掛けながら、様々なジャンルの本に親しませ、読書指導の充実を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は76.2%で、数値指標を達成できなかった。ただし、教職員の肯定的回答は96.3%、保護者の肯定的回答は94.7%、地域住民の肯定的回答は100%であることから、児童の意識として、最後まで読み終わないと読んだと認めない厳しさの表れとも考えられる。 「朝の図書館開放」「毎日の朝の読書の時間の確保」により、読書のリズムが定着してきて静かに読書している様子が見られる。読み聞かせボランティアの方々と親しむ機会が多かったことや司書によるブックトーク等の実施も、児童の読書意欲の向上に効果的であり、本好きの児童が育っていると考えられる。 【次年度の方針】 児童の肯定的回答が目標数値に達成していないが、昨年度（68.7%）に比べてやや向上している。引き続き、朝の図書館を開館し利用時間をより多く確保するとともに、朝の読書の時間を充実させ、読書の推進に努める。 また、家庭でのファミリー読書を奨励し、家庭の理解と協力を呼び掛けながら、様々なジャンルに親しませ、読書指導の充実を図る。 さらに、若松原地域学校園でも連携・協力して読書活動の推進に力を入れていく。
B 5 教職員は、児童の人間関係力向上を目指して、縦割り班活動を推進している。 【数値指標】① 学校独自アンケート「私はたて割り班活動で多くの友達と楽しく活動している」⇒児童の肯定的回答80%以上	リーダーである6年生を中心に、各学年の役割や協力の仕方を学ぶ場として縦割り班活動を充実させる。活動の前に手をつないで輪になり、活動内容を共有する場を設けるなど、中学年や低学年の児童にも、コミュニケーション力や人間関係力の向上を目指せる場とする。	【達成状況】 児童の肯定的回答は91.8%で、数値指標を達成した。 わくわくタイムやボランティア活動、長縄大会などで年に10回以上の交流活動の機会を設けており、積極的に異学年と関わろうとする児童が多く見られた。 【次年度の方針】 今年度に引き続き、児童の人間関係力向上のため、縦割り班による共遊の時間やボランティア活動、長縄大会などの異学年交流の機会を設けていく。 児童同士が縦割り班活動において、楽しく友達と関わりながら活動することができていた様子から、次年度の数値指標は、児童の肯定的回答90%に引き上げる。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ 各項目の数値指標のうち約8割を達成することができた。
- ・ A 1「学校全体に活気があり明るくいいきとした雰囲気である。」A 2「教職員は協力し、児童のよいところを認め、教えるべきことを教えている。」A 6「学校の日課、授業、行事などの教育課程は、適切に実施されている。」A 7「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信している。」A 8「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」の項目については、保護者・地域住民・児童・教職員の全てから9割以上の肯定的回答を得られており、学校運営がおおむね適切に行われていると捉えることができる。
- ・ A 3「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」については、数値指標とした児童の肯定的回答は昨年度を上回り、目標を達成しているが、教職員・保護者・地域住民の肯定的回答はいずれも昨年度より下回っており、4者の認識にずれがある。
- ・ A 1 1「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」については、指標より5ポイント下回っているが、昨年度より8.3ポイント上昇した。今年度の取組が功を奏したと捉えられるものの、教職員・保護者・地域住民・児童の4者ともに肯定的回答はまだ低い。
- ・ B 4「教職員は、児童の読書意欲を向上させるための取組を推進している」については、児童の肯定的回答が数値指標を大きく下回った。ただし、教職員・保護者・地域住民へのアンケートの肯定的回答はいずれも90%以上であり、認識にずれがある。本項目以外にも児童自身のことを問う質問については、肯定的回答が比較的低い傾向が見られる。これは、児童の自己肯定感や自己有用感の低さも背景として考えられる。

6 学校関係者評価

学校運営の状況について

- ・ 授業を参観したり、廊下に掲示されている作品を見たりすると、この一年間でそれぞれの学年なりに成長した様子をうかがうことができる。教職員の指導の成果と考える。
- ・ 授業と生活のきまりやマナーを守ることにについては、児童の回答を除いて低下している。特に教職員の肯定的回答が低い、それだけ児童への期待値が高いととらえている。
- ・ 学校だよりや毎日のように更新される学校ホームページの新田日記により、学校の取組についての情報発信がよくなされていると感じる。

教育活動の状況について

- ・ 児童の言葉遣いについては、本校に限らず年々課題となっている印象がある。学校だけが取り組む問題ではない。特に低学年は、自身で判断する能力が育っていない分、大人がぞんさいな言葉を使うと影響は大きいと感じる。大人が言葉遣いに敏感になり、聞き苦しい言葉のときには「いやだ」というメッセージを伝えたり、地域の大人が勇気を持って指導したりするなど、大人全体の責任として取り組んでいかなければならないと考える。

本校の特色・課題等について

- ・ 児童の読書については、昨年度より肯定的回答は増えたが、数値指標には届いていない。学校支援ボランティアとして更に工夫できることを考えていきたい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

「学校運営」、「教育活動」、「特色・課題」の項目すべてにおいて、一定の評価は得られたと捉えている。

その上で、学校の取組については、引き続き各種便りや学校ホームページの更新、オープンスクールでの学校公開などを通して、積極的に情報発信していくことで、理解を得られるようにしていきたい。

また、これまでの取組を継続したりさらに充実させたりしていくことはもちろんであるが、児童が様々な活動を行う中で、いかにして自己肯定感や自己有用感を高め、自分の行動や考えに自信がつけられるようにしていくかということは、今後、学校・家庭・地域が一層連携をして取り組む課題と考えている。